

5月の植物

オオカメノキ（別名ムシカリ） レンブクソウ科

Viburnum furcatum Blume ex Maxim.

科名はこれまでスイカズラ科にされていたが、新しい分類体系 APG ではレンブクソウ科 (Adoxaceae) になっている。

4月末、小雨に煙る脊振山のブナ林内を歩くと、ツツジ類など木々の花は未だ咲くに及ばない中、幻想的に真っ白い花が目立つ樹木があった。よく見るとムシカリだ。ムシカリは昔の名まえ。現在は別名とされていたオオカメノキが標準和名ようだ。

オオカメノキは落葉小高木でよく分枝して高さ 6mほどになり、花は佐賀県では 4月下旬から 5月上旬にかけて咲く。枝先に直径 6~14 cmの散房花序を出し白い花を多数つける。花序の中心に両性花が集まり、その周りに 5 裂に平開した白い装飾花がたくさんつく。葉は対生し、直径 6~20 cmの円形から広卵形で、先は短く尖り基部はハート形をして、縁に不揃いの鋸歯がある。果実は 8月から 10月に赤い核果となる。完全に熟すと黒くなり、花序の枝が赤く目立ち鳥に存在を知らせる。これを「二色効果」と呼ぶそうである。

ムシカリの名は葉がよく虫に食われるので「虫食われ」から転訛。オオカメノキの名は葉の形が「亀の甲羅」に似るとする説や、「大きなガマズミ」の意味とする説がある。

佐賀県内では脊振山地や多良岳山地の海拔 800m以上の落葉樹林帯に稀に生育し、脊振山頂上付近のブナ林内では亜高木層を構成する。

(井手義信)

参考文献：佐賀県植物目録、佐賀の自然と植物（以上佐賀植物友の会）、樹に咲く花（山と溪谷社）

